

# 井口・鈴が峰マップ

いのちライフインフォメーション



凡 例

官公庁	学 校	育 保 育 園	幼 幼 稚 園	児 児 童 館
警 察 署	消 防 署	病 院	医 医 院	銀 行
郵 便 局	神 社	仏 閣	デパート	レスタ ン
コ ン ビ ニ	ガ ラ ガ ラ	公 園	集 集 会 所	ス ー パ ー
本 屋	ホ テ ル			

地図使用承認  
©昭文社 第07W021号



### ●小己斐明神

小己斐明神は、昔、平清盛が厳島神社建立の際、鈴ヶ峰より木を切り出し刻印を打ち、筏を組み、送り出したことから刻印の明神と呼ばれた。

また、子宝の神さまともいわれ、別名子乞明神といわれた。

寛政3年(1791)に己斐村の人が阿瀬波地先に土地を造成(入川新開)、己斐旭山神社の分神をお祀りしたことから、小己斐明神といわれるようになった。御神体は大正2年(1913)大歳神社に合祀されている。元井口漁港として使われ、当時の雁木が、今も残っている。



### ●道路碑

明治9年(1876)、関西交通の難所であった龍神山を通る井口の難路が解消され、海岸を埋め立てた平坦道路の旧国道が完成。それを記念して、翌年、井口電停北側に碑が建てられた。現在は井口高校北西角に移されている。石碑には「宇良安く 行かふ道をつくりしと 濱のまさこの 尽ぬいさをや」と書かれてあり、千家尊福(せんげ たかとみ)の詠歌名がある。



### ●塩釜神社

塩釜神社には塩椎神(しおつちのかみ)が祀られている。「塩」は「潮」のごとで、潮流をつかさどる神、海路の神、航海の神などといわれている。

昔は少し右奥にあり、人々が谷川の清水で喉を潤し、老松の木陰で休んでいた。



### ●西国街道の街道松

西国街道は交通路の要衝で、旧国道に老松があり、参勤交代の行列がここを通過した。

道路拡幅により伐採され、現存しない。松の切り株が北側のまつのき薬局に記念として保存されている。

昔、御鉢松、傘松、幽霊松、清太郎松、井口小学校の校庭の松が井口の五本松といわれていましたが、全て枯れてしまった。

井口小学校の南校舎西側の下駄箱の南側に、開校当時の古い大きな黒松があり、そのため空間地を取っていた。



### ●餓鬼の首地蔵

昔は小山の険しいのをきといわれ、井口四丁目(阿瀬波・汗馬)西端の山が出張った突端に約10m位の椽を伏せたような小山があり、首に見立て「餓鬼の首」と名づけたらしい。

ある時、船が時化にあい船頭が亡くなり、その家族がお地蔵さんを祀り供養し、海の安全を祈願している。

五日市との境界にあったので、境地蔵とも呼ばれた。



# わがまち井口・鈴が峰マップ

いのくち歴史ロマン



### ●井口のもも

昭和40年代中頃までは、井口の山手は一面の桃畑で、春には山の裾野が桃の花でピンクに敷き詰められ、村人が花の下でよく花見をしていたものです。

井口の昔の村歌にも、柑橘、甘藷、桃、無花果とつたわれ、井口の名産だった。今でも、桃畑やみかん畑が当時の面影を一部残している。



企画・編集 井口・鈴が峰マップづくり委員会  
発行 広島市井口公民館・広島市鈴が峰公民館  
広島市西区役所 平成19年(2007年)7月



### ●大歳神社

大歳神社は、神武天皇が井口に立ち寄られた際に船を繋いだ場所を社として、万寿元年(1024)に創建されたと伝えられている。

活癩明神(かっほうみょうじん)とも称し、癩瘡(ほうそう)の守護神として篤く信仰されていた。大正2年に胡子神社、小己斐明神、警神社(いわがみしゃ)が大歳神社に合祀された。

境内には400年を越す椋、300年を越すクロガネモチの巨樹がある。

### ●「鈴峰」の石碑

鈴ヶ峰は、昔、佐伯山や井口山とも呼ばれていたそうで、頂上近くには行基の修行道場のひとつ正信院や阿弥陀寺、観音堂、勢至堂があったといわれる。

広島藩最後の藩主浅野長勲(あさのながこと)の筆になる「鈴峰」と書かれた自然石がある。残念ながら、平成13年の芸予地震で倒伏。



### ●龍神山

龍神山は、古くは御立山、新宮山、龍口山ともいわれ、山の中を通る西国街道は、東の箱根、西の井口といわれたほどの道が険しく交通の難所でもあった。

かつて、頼山陽(らいざんやう)と田能村竹田(たのむらちくてん)が頂上の傘松の下で月見の宴を張り、満月の中の絶景に感動され山陽は親月山、竹田は望月山と名づけ、一首ずつの詩を詠まれた。



感動され山陽は親月山、竹田は望月山と名づけ、一首ずつの詩を詠まれた。

### ●首なし地蔵

ある時、若い武士3人が通りかかり、うち一人が「この地蔵の首を斬ってみようか」というたところ、連れの二人が「この硬い首が斬れるわけがない。地蔵を傷つけたら罰が当たるぞ」と押し止めたが、きこうともせず地蔵の首を切り落とした。と、同時に斬った武士もぼったり倒れた。よく見ると、折れた刀の切っ先が首すじに突き刺さっていた。それからは、だれともなく首なし地蔵といわれている。



### ●正順寺

昔は真言宗で正信院と称し、鈴ヶ峰の頂上付近にあったが、広島藩浅野家、森島権平という侍が出家し本願寺13代良如上人の直弟子となり、了恵という法名を賜り、寛永11年(1634)浄土真宗に改宗して、現在の場所、龍の口に建立。

当時は、現在の北門を正門として旧大名通りに面していた。本堂は、近郊では珍しい寄せ棟造りで、享保5年(1720)の銘が入る山門



の梵鐘は、県内現存の江戸鐘40余りのひとつである。